

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年11月15日

【事業所概要（事業所記入）】

	0870102001		
法人名	有限会社 エリア・ネットワーク・サービス		
事業所名	グループホーム あしたば	ユニット名	
所在地	〒310-0913 茨城県水戸市見川町丹下一ノ牧2131-1303		
自己評価作成日	平成28年7月6日	評価結果 市町村受理日	平成28年11月24日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kihon=true&JigyosyoCd=0870102001-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成28年7月27日	評価機関 決 済 日	平成28年11月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ご家族に代わってその方らしく生活することができるよう、ご本人の意思を常に確認しながら、出来ることは少しでもご自分でやっていただき、隣で見守りながら安全に生活できるよう努めております。同施設内のデイサービス、ショートステイのご利用者の方々と合同でリハビリ体操、食事会（季節の食材を用いての弁当）、近隣の方を招いての敬老会等、明日葉のグループホーム入所者以外の方々との交流を深める機会を多く心掛けております。天気の良い日には市内をドライブしていただいたり、庭の草花、野菜等の栽培をみながら散歩する等、ストレスを作らない様努めております。グループホーム専属の職員だけでなく、明日葉全職員でご入所の方々の状況を把握し、対応しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

理念にある「明るく笑顔の絶えない家庭的な環境」に基づき、職員は利用者が日々穏やかな雰囲気の中で過ごせるよう実践している。
広々とした敷地内には季節の花が植えられた花壇があり、利用者の心を和ませている。
併設する同一法人他施設と合同で行う「あしたば祭り」には、地域住民を招待して参加を得たり、地域の夏祭りに利用者と職員で参加するほか、近隣の方を招待して食事会を開くなど、日頃から地域住民との交流に努めている。
同一法人他事業所の利用者と一緒に、選択制のクラブ活動に参加することで、事業所以外の方との交流を図ると共に、本人の希望や意志を尊重しながら支援をしている。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	業務の内容を指示する際、理念と重ねて意味を理解している事を確認しながら話をするよう努めている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を施設長が作成し、玄関や事務室に掲示するとともに、朝礼時に職員で唱和したり、各自ネームの裏に携帯して共有を図り、実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	当施設の「あしたば祭り」には近隣の方々を招待し、夏に行われている地区の「丹下祭り」にも参加し交流を深めている。散歩時など近隣の方と挨拶を交わしたりして親交を深め、2ヶ月に1度、近隣の方を招待し、食事会を設けている。	2ヶ月に1回地域の清掃活動に利用者と職員で参加している。 併設する同一法人他事業所と合同で「あしたば祭り」や、2ヶ月に1回食事会を開催し、地域住民の参加を得ている。 「あしたば祭り」ではフラダンスや和太鼓などのボランティアが、来場者を楽しませてくれているほか、毎年地域の「丹下祭り」に利用者と職員で出かけ、出店の買い物などを楽しんでいる。 事業所では中学生の職場体験を受け入れるなど、日頃から地域住民と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1度の近隣の方を招待した折、認知症特有の施設での過ごし方を見て頂き、グループホーム本来の意味や役割を理解して頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回（2ヶ月に1度）実施している。その中で出た議題や案内、内容については積極的に取り組んでいる。また、高齢福祉課の方、民生委員の方からの情報、家族の意見・要望を取り込み、毎日のサービスに活かしている。	運営推進会議は家族等の代表や市職員、民生委員、職員で2ヶ月に1回開催している。 事業所からは行事や利用者の状況報告のほか、事業所の取り組みなどを報告し、委員から出た意見や助言をサービスの質の向上に活かしている。 会議の中でインフルエンザなどの感染症対策について、勉強会を行っている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には市の担当者には出席依頼し参加をして頂いている。行政からの意見や対策など情報をいただいたり、こちらからの問い合わせに答えていただいたりして情報交流を行っている。	市担当者が毎回運営推進会議に出席しているほか、管理者は市に直接出向いたり、電話等で担当者に空き状況を伝えて相談している。管理者は水戸市グループホーム連絡協議会で行う研修会に参加し、そこでも市担当者と情報交換をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設が交通量のある道路に面しているため、ご家族のご理解を頂き、玄関はオートロックを採用している。外出は利用者様の希望により随時職員が付き添い外出出来るようにしている。施設内では俳諧等にも見守りを重視し、常に職員が寄り添うようにしている。	身体拘束排除に関するマニュアルを作成し、月1回の職員会議で管理者が身体拘束をしないケアについて話をしているが、定期的に内部研修を行ったり、マニュアルの中に言葉による拘束を記載するまでには至っていない。 現在、身体拘束を行っている利用者はいないが、やむを得ず身体拘束を行う場合に備えて、同意書や経過観察記録などの書類を整備している。 玄関の施錠に関しては家族等に説明をして同意を得ているが、解錠に向けての取り組みはされていない。	身体拘束排除に関するマニュアルの中に、言葉による拘束の内容を記載し、全職員で共有するとともに、定期的に内部研修を行うことを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎日の業務の中で認知症という疾患をよく理解する事の大切さ、その対応の仕方など、現状に合った実践方法を全体会議などで意見を出し合いながら、統一した対応方法を提供できるよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	レジメや参考書類にて職員全員が知識を深めるように努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時に入居者様とその家族様に契約内容の説明を行い、不安や疑問点に関してはご理解・納得・安心していただけるよう、時間をかけて説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情受付箱を設置し、ご家族様の来訪時や行事イベントへのご招待時などに気軽に会話できるような雰囲気を作っている。また、面会、病院受診等で来館時、近況報告をし、意見・要望を伺うよう努めている。	重要事項説明書に事業所等の苦情相談受付窓口の明記や掲示するなど、家族等が意見や苦情を言える機会を周知している。 利用者からは日々のふれ合いの中で、家族等からは電話や来訪時、家族アンケート、意見箱などで意見や要望を聴くよう努めている。 利用者からの「生寿司が食べたい」との要望を受けて、食中毒の心配のない冬期に提供し、利用者にとっても喜ばれた。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回のカンファレンス及び全体会議に於いて、管理者や職員により良い運営をする為の意見を出し合い、業務に活かし、改善に繋げている。	管理者は月1回の職員会議や日頃より、職員の意見等を聞くように努めているほか、法人代表による年1回の職員面接時に職員の意見や要望を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要があると判断した職員に関しては、面談をし、考えている事など状況を把握し、その者らしく元気に業務にあたるよう配慮するよう努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修修了者には全体会議での発表やカンファレンスで報告する等、知識の共有を目指している。職員の質の向上を目指して系列の施設へ2～3ヶ月の研修に行ったり、事例をあげてよく話をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	月に一度、各セクションの問題点をあげ、皆で解決策を考えている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者ご家族からご本人について聴取する事はもちろんの事、ご自宅に伺いご本人の生活、どんな事を好まれるか目を見て、その方を知る事をし、その方に近づき、不穏になった際にでも会話に役に立てるよう努めている。その方に心から寄り添い、話を伺う事を第一としている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人はもちろんの事、ご家族の思いを受け止め、どんな小さな事でも耳を傾け、一緒に解決していけるよう努めている。小さな事でもご家族に連絡をして、安心して頂けるよう心掛けしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	よくお話しを伺い、必要であれば、地域包括など公的機関と連携をし、少しでも安心して頂けるようサポートしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事前にあセスメントした事をもとに、その方らしく施設の中でも過ごして頂けるよう、出来ることは見守りをしながらして頂き、新しい事にも本人の意志を確認しながら取り組んで、また、新しい楽しさを味わって頂く事を心掛けている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事の時は特にご家族もお呼びし、共に過ごして楽しい時間を味わって頂く事に努めている。その他、日常においてもこまめに電話をしたり、書面にしてご様子をお知らせし、その都度ご家族の意向も確認しながら支援を継続している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	第一に大切なのは、その方の今まで歩んで来られた生活を知る事であり、アセスメントし、それに基づき年賀状などご本人が書き、今までの関係も継続する事を心掛けしている。	入居時の聴き取りや申し送りノートのほか、利用者との日々の会話の中から、利用者が築いてきた馴染みの人や場所を把握するよう努めている。 職員は利用者の友人や親戚が来訪した際には、お茶などを出して寛いで過ごせるような雰囲気づくりをしているほか、要望があれば近所のコンビニエンスストアやスーパーへの買い物に同行したり、年賀状や絵手紙の作成支援をしている。 自宅への外出や外泊、外食や墓参りなどに、家族等の協力を得ながら出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体不調の方がいらっしゃれば病院受診をし、不在となれば帰館するまで皆で心配をし、顔を見ると“おかえりなさい”と笑顔で迎えて下さったり、家族のような心温まる光景がしばしばある。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	体不調により病院へ入院、そして老健入所になった方などに明日葉入居中のご本人の状況（食事の取り方、性格等）を施設側に伝えたり、ご家族にはご様子をお話ししたり、スムーズにその方に対応出来るよう支援に努めている。病院には週2回訪問し、老健入所をサポート。老健入所時は、週1回の訪問にて一か月間に亘り経過をフォローしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の支援をしている中、気になる点、注意しなければならない点等については、全職員で支援の方向を統一し、この時はこのように声かけ、言葉掛けをする等書面で周知し、本人本位の支援に努めている。	職員は入居時の聴き取りやアセスメントシートのほか、利用者との日々の関わりの中で希望や思いを把握しているが、業務日誌に記載しているため日々の記録に埋もれてしまい、全職員で把握するまでには至っていない。 意思疎通の困難な利用者の場合は、家族等に相談したり、表情や仕草などで思いの把握に努めている。	把握した利用者の思いやつぶやきは、個人記録などに記載して全職員で共有し、サービスの質の向上に活かすことを期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査、ご家族・ご本人からの聴き取り、もしくは、自宅での生活を目で見て生活環境を把握する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、バイタル測定にて心身状態の把握はもちろんの事、少しでも体に変化がある場合、ご家族に連絡・報告し、早めの病院受診を心掛け（送迎も含めご家族に代わり付き添い）している。心身状態は全職員に周知し、対応方法も考え、統一した支援が出来るよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様、ご家族様の意見・要望に基づいて介護計画を作成し、月に一度家族・本人に意思の確認を行っている。今、どの程度実施出来るのかを把握し、次の計画を作成している。	介護計画は利用者や家族等の意見や要望ほか、管理者や職員で話し合っって計画作成担当者が作成し、面会時や請求書送付時に同封して家族等から同意を得ている。 モニタリングは毎月行って利用者と家族等に確認をしているほか、短期目標は3ヶ月毎、長期目標は6ヶ月毎に設定し、基本的に1年毎に計画の見直しをしている。 利用者の状態等に変化が生じた場合は、現状に即した介護計画に随時見直しをしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その方の様子は、介護日誌・個別記録に記入し、ご本人の様子を基に家族の要望も確認し、追加または変更がある場合には毎月一回のカンファレンス時、職員と確認しながら介護計画を見直し、その方に合ったよりよいサービスを提供出来るよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同事業所内のデイサービス・ショートステイと合同で、食事やレクリエーションを実施したり、どこでも支援出来るように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設内行事である2ヵ月に一度の食事会に近隣（特に独居の方）を招待したり、地区内の中学校のボランティア活動も毎年受け入れて、昔の遊びなどを説明したり、教え差し上げたり、懐かしさを味わう事もある。また、見川地域の夏祭りへの参加も毎年恒例となり、季節の行事参加も心掛けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一、二度、協力医療機関受診をご家族に代わって日常の生活状況もドクターに伝えられ、スムーズな対応が出来ており、他の病院受診に関してもご家族等が付き添い、介護サマリーを渡して利用者の状態を伝えているほか、受診結果を聞くとともに記録して、全職員で共有している。	契約時に利用者や家族等に希望するかかりつけ医への受診が可能ことや、協力医療機関の医師をかかりつけ医にできることを説明し、確認を得ている。 月1回の協力医療機関への受診は職員が付き添い、家族等の希望があれば、今までのかかりつけ医へも職員が受診支援をしている。 受診結果は家族等には電話や来訪時に報告しているが、職員には業務日誌に記載して、看護師からの申し送りのみになっている。	受診結果は内服薬の変更などを含め、その日のうちに個人記録と受診ノートに記載して全職員で共有することを期待する。
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内に看護師がおり健康管理をしている。看護職員は利用者様の状態・職員や家族の情報を医師に伝え適切な診療に繋げている。適切な看護、介護と治療が可能となる。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	救急などで入院する場合、指定医が医療機関と連携してる。病院関係者との情報交換は主に管理者が行い、入退院時の付添なども行っている。入院時には定期的に様子を見に行き、治療がスムーズにできるよう医療関係者との情報交換や情報共有をし、信頼関係を築いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所としては看取りはしない方向である旨入居時に家族へは説明しているが、利用様家族等の希望に沿った支援を心かけている。かかりつけ医と相談し、医療機関と連携を取りながら希望に添えるよう支援している。	事業所では看取り介護は行っていないことを契約書や重要事項説明書に記載するとともに、「重度化・終末期マニュアル」を作成して契約時に利用者や家族等に説明し、書面にて同意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを設置してある。緊急連絡網もわかりやすい場所に掲示し、急変時に備えて実践している。研修に参加したレジメなどは職員全員が共有し、参考に出来るようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内で防火訓練・放水訓練・水消火器による消火訓練などを実施し、災害対策をしている。近隣への災害時協力もお願いに回っている。	過去1年間火災訓練以外の訓練を含む、避難訓練が行われた実績はない。 災害に備えて米や水、食料品、懐中電灯、おむつ類、カセットコンロ、ラジオを備蓄しているが、賞味期限などを記載して一覧表で管理するまでには至っていない。	夜間想定等を含む避難訓練を年2回以上実施し、訓練後には職員で話し合って反省点等を記録に残し、次回に活かすことを期待する。 備蓄品は賞味期限等を記載したリストを作成して管理することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	場面に応じて言葉や声の大きさなどに注意し、ご利用者様のプライバシーや尊厳を大切にすると同時に、否定しない対応を心掛けている。	プライバシー保護に関して、職員は利用者の人格を尊重するとともに、誇りや自尊心に配慮した言葉かけに配慮している。 個人情報の取り扱いについては、契約時に家族等から書面にて同意を得ている。 個人情報に関する書類は、施錠できる書棚に保管し、取り扱いに注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の様子や言動から思いをうかがうと共に、考えがまとまらない時、さりげない言葉かけにより本人の希望を話し易くしたりして、自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様の思いを大切にし、自己表現を促すように声かけに注意している。ご利用者を第一に考え、その日の体調や希望により、時間配分やサービス提供内容を見直したりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者様の希望を優先し、毎日清潔保持に努めている。意思疎通が難しいご利用者の場合には、職員が衣類や身だしなみを整えている。ご利用者様からの希望により出張散髪に来てもらったりしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	当社の栄養士がメニューを作成しているが、定期的に毎月一回外注・お弁当・施設内行事に参加され楽しくされている。個人のマイコップ、箸、盆、茶碗を用意し、片付け等についてはその方の力に合わせて毎食時に行っている。	献立は利用者の好物や苦手な物を踏まえて同一法人の栄養士が作成し、調理済の物が届いて職員が盛り付けをしている。 苦手な食材の場合には代替え食を用意している。 正月にはおせち、誕生会にはケーキなどの行事食を提供するほか、家族等が同行して外出に出かけるなど、食事が楽しめるように配慮している。 利用者はできる範囲でテーブル拭きや盛り付け、下膳などを一緒に行っており、職員は利用者と同じテーブルに着いて食事介助をしたり、楽しく話をしながら同じ食事を摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの栄養状態や健康状態に合わせて食事量など栄養士の指導を受けている。食事量・水分量・排泄チェック・服薬チェックなど、毎日記録を執り行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・毎食後、自室にて自分で出来る方は実施して頂き、介助が必要な方については個別対応で行っている。義歯の手入れや歯磨きも自分でできるよう誘導している。自分で行うのが困難な人には職員が支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ご利用者様の生活リズムに合わせた時間にトイレの声かけ・誘導をし、トイレ内にて排泄をしてもらうよう支援している。トイレでの排泄が大切と考え、一人ひとりの排泄パターンを把握している。	職員は排泄チェック表や個人記録を活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、利用者の仕草やサインから察知してさりげなく声かけ誘導し、できるだけトイレで排泄ができるよう支援している。 職員の適切な声かけにより、おむつからリハビリパンツやパッドに改善した利用者がある。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師との判断の元、利用者様の排便状況を記録し、一人ひとりの状態を把握するように努めている。また、ストレスの軽減を心がけ、個々人に合わせた気分転換や運動などを行っている。便秘時には水分補給や腹部マッサージなどを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日のバイタル測定にて、体調変化を見極めて行き、本人本位で入浴できるよう支援している。また、体調により一般浴か機械浴かを判断し、安心して入浴できるよう努めている。	入浴は1日おきを基本としているが、利用者の希望によっては毎日入浴ができる体制となっている。利用者の状態に応じて、併設する短期入所介護事業所の機械浴槽を利用し、安心して入浴ができるよう個別に対応している。入浴を拒む利用者には強要はせず、職員や時間帯を変えたり、清拭や足浴で対応するなど、工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様個々の生活習慣や睡眠状態に応じて居室での昼寝や休息時間を設け、時間にとらわれず休んで頂けるように支援している。フロアに設けたソファや畳スペースで寛げる環境づくりや日光浴などで夜間の快眠に繋がられるよう努めている。深夜等、不穏になった方の対応は、とにかく安心して休めるよう、家族に代わって心から対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様毎の個人服薬表を個人別にファイルし、全職員が確認、薬効などを理解・把握できるようにしている。毎食の服薬時には必ず職員間で確認し、安全に服薬できるよう支援している。また、大きな症状変化は速やかに看護師に報告すると共に、カンファレンス時などに情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の清掃やごみ捨て、洗濯物干しと衣類たたみ、生活に必要な備品類の運搬支援、食事の準備と後片付けなど、一人ひとりにあった役割や生きがい・喜びなど、楽しく生活が送れるよう支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設敷地内での日光浴や近隣スーパーなどへの買い物支援、ご家族との定期的な外出・外泊を支援している。また、当施設に併設されるデイサービスやショートステイでのイベントに参加して頂くことで外出の機会を増やし、施設の夏祭り開催時などにはご家族にも参加して頂き、家族とのつながりを感じられるような支援に努めている。	天気の良い日には、利用者と職員で事業所周辺を散歩し、近隣住民と挨拶を交している。年間行事計画を立て、家族等の協力を得ながら車いすの利用者も一緒に、花見や新緑ドライブ、紅葉狩りなどの普段行けないような場所や、買い物に出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、金銭管理をできる利用者はいないため、施設管理としている。立替え制度を導入しているが、月一度程度、消耗品等の購入時に外出している。	/	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に合わせて、職員が電話をかけ、取り次いで話してもらっている。家族へ年賀状を出すなど手紙のやり取りも支援している。また、個々に配達される郵便物や荷物などは状況に応じてご家族に渡している。	/	
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内にはゆったりと寛げるソファや畳スペースを設置し、テラスからは花壇を眺めることができるなど季節が感じられ、自由に過ごせるようにしている。壁面には季節に応じた装飾品や利用者様と職員共同で作った折り紙なども飾り、書棚には書籍や人形・置物を飾って楽しんで頂けるようにしている。また、キッチン是对面式を採用し、利用者様・職員双方とも良く見ることができ、安全面にも配慮した構造になっている。トイレ・浴室は清潔保持に努め、手摺を設置し、トイレは車椅子でも対応が出来るスペースを確保している。風呂は個室浴槽でお一人ずつ快適に入浴できるようにしている。	玄関には施設長が手作りした暖簾が飾られており、温かみを感じるほか、居間兼食堂には職員と利用者で作った折紙作品や、季節の花の装飾品を飾っている。 居間には畳のスペースやソファを配置して利用者が思い思いに寛ぐことができるほか、居間からデッキに出ることができ、利用者は花壇を眺めたり外気浴を楽しんだりしている。 トイレは車いすのまま入れる広さに手摺を設置、浴室にも手摺とシャワーチェアを配置するなど、安全面に配慮している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内のソファや椅子の位置などでお一人お一人の居心地の良い場所ができつつある。また、お一人おひとりのアセスメントをよく理解し、その方らしく生活できるよう努めている。	/	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはベットやダンス、洗面台、照明、エアコン、カーテンが備え付けとなっている。入居説明時に馴染みの物・使い慣れた物を持参してもらおうよう説明し、環境の変化を最小限に居心地よく過ごせるようにして頂いている。テレビや衣装ケースなどを自由に持ち込んでいる利用者も少なくない。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが安全に活動できるような環境整備をし、少しでも自分でできる、やってみたいという本人の意志を尊重し、細やかな心配りができるよう、よくその方を観察するよう対応に努めています。	/	

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに <input type="radio"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目標達成計画

事業所名 グループホームあしたば

作成日 平成28年11月20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	30	受診結果、内服薬の変更などは、その日のうちに個人記録、受診ノートに記載することを習慣つけていく。	○受診ノートを作成し記録する。 ○個人ケース記録に記録するよう職員に促し習慣としていく。	何ごとも、記録に残すことの必要性を周知し、徹底していくよう職員同士の声かけなどにて記録忘れを防止していく。 利用者の病状を把握していく。	2ヶ月
2	23	利用者の思いやつぶやきを、個人情報記録に記載し全職員が共用できるようにしていく。記録が業務日誌になってしまい、本人の言葉を見逃してしまっている。	○利用者やゆったりとコミュニケーションを図る環境をつくることで、利用者の気持ちに寄り添っていくことで、つぶやきを見逃さずに確認できるようにしていく。	業務を時間通り進めようという心の余裕をもって、コミュニケーションを図る時間を確保していく。 カンファレンス時にケース記録を確認し利用者自身のつぶやきや思いが書かれているか評価する。	6ヶ月
3	5	身体拘束排除に関するマニュアルに言葉による拘束内容を記載し定期的に内部研修を実施していく。	○8月に内部研修を実施。今後は定期的に内部研修を予定していく。 マニュアルに言葉に関する拘束内容を記載していく。	年間予定として年に1度は内部研修を実施し、全職員に周知していく。 言葉による拘束内容を確認しマニュアルの中に取り込み周知していく。	12ヶ月
4	13	災害対策 夜間想定等を含む避難訓練を年2回以上実施していく。 備蓄品は賞味期限等を記載したリストを作成する。	○年間予定に取り込み避難訓練を年2回以上実施していく。 ○備蓄品リスト作成できている。賞味期限はすでに把握済みであるが、定期的に確認し記載を継続していく。	年間予定として夜間想定も含み、年2回実施して行くよう計画していく。 定期的に確認することを怠らず、記載して備蓄品の内容を把握していく。	12ヶ月
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。